

## 第 202 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 4 年 4 月 28 日（木） 13：30～15：05

場 所：浜田市立中央図書館 2 階多目的ホール

出席者：岡田教育長 宇津委員 花田委員 杉野本委員 岡山委員

事務局 森脇部長（欠席） 草刈課長（欠席） 松山担当課長

山口課長 永田担当課長 木屋担当課長 鳥居室長 田中課長

書記：日ノ原係長 川村主任主事

新型コロナウイルス感染防止に伴う出席者の調整のため、議題、報告資料のなかった邊担当部長、猪木迫担当部長、濱見室長、岩崎分室長、細川分室長、上原分室長、石原分室長は、欠席。

### 議事

#### 1 教育長報告

#### 2 議題

(1) 令和 4 年度教育委員会学校訪問について（資料 1）

(2) 令和 4 年度総合教育会議の議題について（資料 2）

#### 3 部長・課長等報告事項

#### 4 その他

(1) 各課年間スケジュールについて

(2) その他

#### 1 教育長報告

岡田教育長

新年度が始まり、一月が過ぎようとしている。委員方には入学式にご出席いただき、ありがとうございます。今、市内の小中学校から学校の様子を聞いているが、比較的、落ち着いてスタートができていると報告を受けている。また同時に、校長会や教頭会も新体制でスタートしているが、年度初めということで、私から教育方針に盛り込んだ教育委員会としての思いを少しお伝えさせていただいた。その話の内容について、委員方とも共有していきたいと思っている。

最初に、令和 4 年度が新しい教育振興計画の初年度になり、前計画から引き継いでいる基本理念である「夢を持ち、郷土を愛する人を育む」の実現に向けて、学校、家庭、地域が総がかりで取組を進めていくことが大切であると述べさせていただいた。

また、この計画の特徴として幼児教育のボリュームが大きくなっており、これまで以上に幼小連携にも意識を向けてもらいたいということも述べている。そして、学校教育の本丸、これはやはり児童生徒の進路保障の考え方に基づいた学力向上にあると思っている。したがって、そのために授業力の向上と社会教育の視点を持った教育活動が重要であると申し上げた。もちろんここで学力の向上と言っても、机上の知識だけではなく、複雑で多様化する社会を生き抜く、たくましい力のことであると教職員の皆さんには十分ご理解をしていただいていると思う。

私はイギリスの哲学者のフランシス・ベーコンが唱えられた「知は力なり」という言葉があるが、この言葉を引き合いに出して、単に覚えた知識ではなく、物事を実際に試したり、実際に経験したことで得た知識が力になるという経験論に基づく考え方を学校現場としっかり共有していきたいと話をしている。何も特別な体験でなくても、今「子どもの声でつくる授業」ということで、教育委員会が推進しようとしているが、児童生徒が主体的、対話的な発言をしていこうとする、そこに向けての色々な体験等がやはり「この知は力なり」という実践に繋がる1つではないかと思っている。特別なことでなくても、自らが発信、発言するための考え方を少し盛り上げていく、そういった仕掛けの中にも実践があると思っている。

また、これらに向けての具体的な例として、教育委員会が協調学習、図書館活用教育を引き続き推進すること、GIGA スクール構想で整備した情報機器を道具として有効に活用できる様に学校をサポートしていくと話をさせていただき、さらに論理的な思考を身に付ける上で理数教育も充実させていくとお伝えさせていただいた。今年度、具体的には研究指定校の枠を浜田市も増やしており、さらに校種も広げている。指導主事の先生方も学校現場で実際に授業づくりのところから取組をさせていただくとお伝えをして、教職員の先生方がおそらくこれまで培ってきた色々な指導方法があると思うが、それでも新しい手法にもチャレンジしていただきたいとお伝えしている。一方、子どもたちが自分の夢を早く見つけることができれば、能動的に学習に向き合うことができるため、そのために学校と家庭と地域のそれぞれの場面で子どもたちの気づき、あるいは選択肢を広げるための経験を積む仕掛けを考えていく。子どもたちが多くの世代の中で人と触れて揉まれる

そんな経験をさせていきたいと思います。これらは入学式の告辞にも盛り込んでいるため、一貫性を持って進めていきたいと思っている。この考え方は、やはり社会教育の視点に基づいた教育活動であると思っており、それを家庭でも地域でもお願いするだけでなく、学校でも例えば部活動の中で地域貢献を考えたり、PTA や地域の方と相談して子どもたちが体験活動に参加できるように背中を押したりしてほしいとお願いをしている。お願いばかりであるが、教育委員会としてはそのための時間を捻出して、教職員の働き方改革にもしっかり取り組んでいくということをお伝えしたところである。この様な話を最初にさせていただいて、今年度がスタートしている。

それでは、お手元の資料に基づいて報告させていただきたいと思う。特に特徴的な部分の話になると思うが、見ていただければと思う。

① 3月29日（火）浜田市文化財審議会（中央図書館）

この審議会の中で、波佐の産業を支えた藍染だけではなく、炭焼きであったり、養蚕であったり、鍛冶屋であったり、そういった用具類の文化財指定を進めていこうと話が出ている。

それから石見神楽の中で、特に面、衣装、蛇胴等の工業技術の文化財指定に優先して取り組むということを確認させていただいている。この報告事項の中で、4月7日、8日を見ていただくと、柿田勝郎面工房や植田蛇胴製作所にも訪問しているが、こうした文化財指定に向けて直接出向いてお話を聞かせていただいた。

② 3月30日（水）浜田高校対話型学習「教育長とWi-Wiトーク」（浜田高校）

これは教育の魅力化コンソーシアム事業の一環として実施しており、浜田高校で公務員や教員を志望している1、2年生8名程度であったが、少し教育長と話をしたいということで、出かけていき、私が公務員として大切にしていることや、浜田市の教育について話をし、質問タイムを設けさせていただいた。子どもたちに伝えたことは、経験に基づく知識の大切さであるとか、ふるさと教育等の浜田市の取組であるとか、これから色々思う様にいかないことや挫折することもあるかもしれないが、人生は塞翁が馬なのでやり直しもきくということと、浜田が皆さんをしっかりと応援しているということもお伝え

させていただいた。

③ 4月15日（金）三市三町教育長会総会（美郷町みさと館）

浜田教育事務所から、この度の人事異動の概要説明を受けた。それから、教員不足や働き方改革についての意見交換をしている。

④ 4月22日（金）島根県都市教育長会定例会・市町村教育長会議・学力育成会議（松江市）

県全体の都市教育長会、市町村教育長会、学力育成会議が開催された。この中で野津教育長から教職員確保に向けた取組の概要、あるいは重点施策について説明があった。県の重点施策を3つ述べられたが、1つ目が理数教育の充実であった。これはテストの結果を上げるということではなく、将来理数が嫌いでその道に進む選択肢を狭めないようにという思いからの取組である。2つ目は、幼稚園や保育所と小学校の連携の充実である。3つ目は、特別支援を要する子どもが社会と触れ合う教育の充実であった。特に最初の2つについては、本市の教育方針と重なっている部分でもあり、歩調を合わせて進めていきたいと思っている。

その後、学力育成会議に移り、理数教育の推進であるとか、幼児教育施設との連携であるとか、あるいは教員不足への対応、特に休日の部活動の地域移行等の働き方改革についての意見交換をさせていただいている。

⑤ 4月25日（月）浜田石見神楽社中連絡協議会との意見交換会（浜田まちづくりセンター）

これは社中の方から、舞いや社中を石見神楽として文化財指定をするよりも、優先して先ほどの面や衣装や蛇胴の指定の取組を急いでほしいということであった。社中の方から自分のことより、支えてもらっている人たちを優先してほしいという熱い思いを伺って、重く受け止めさせていただいて、これから再度進めていきたいと思っている。

以上、冒頭、校長会や教頭会で述べた内容や1か月間の私の活動報告について述べさせていただいた。

1か月間の報告は以上である。

今のところで、質問等はあるか。

質疑応答

宇津委員

4月7日(木)第四中学校の通学路の現地調査であるが、これは統合に関わってくる問題であるか。

岡田教育長

第四中学校と第三中学校の統合に関しては、保護者の方々、地域の方々への説明会を開催したが、そこで大型バスでスクールバスを走らせることについて、色々と工事中の区間等があったりするため、心配な点の指摘もあった。実際に44人乗りの大型バスを借りて、そのルートの試走をした。結果として、やはり本当にこの大きさを大丈夫なのかと気づいた点はいくつかあったため、今度の保護者、地域への説明会までに修正できる点は修正して臨みたいと思っている。

宇津委員

承知した。

岡田教育長

その他はよろしいか。

各委員

特になし。

2 議題

(1) 令和4年度教育委員会学校訪問について(資料1)

日ノ原係長

対象校は小学校16校、中学校9校の全25校である。

実施期間については、6月下旬から7月までのところで、昨年度と同様の期間での実施を考えている。

訪問者については、コロナ等の関係もあり、人数を絞って教育長と教育委員方4名、総務企画係長の私の以上6名で考えている。

訪問内容としては、例年どおり校内視察を先に行って、その後に管理職とのヒアリング、意見交換という流れで進めていきたいと思っている。

参考に、過去の意見交換のテーマを令和3年度から平成29年度までを載せている。本日のところで、実施期間について6月下旬から7月までのところで、主に7月になってくると思うが、この中で昨年度は6日間で実施している。丸一日が4日間、半日が2日間で実施をしたが、この期間について本日のところで決めていただき、意見交換のテーマについては、本日のところで決まらないようであれば5月に持ち越すことも可能であると思っている。

期間については、本日決めていただければと思っているため、よろしく願います。

岡田教育長

どの様に決めるか。ある程度、案があるのか。

日ノ原係長

おおむね、1学期でいいのか、やはり2学期がいいなど、日にち

については学校のスケジュールを見させていただきながら調整させていただき、お知らせさせていただくことになるが、おおむね、この時期なのか、違う時期がいいなど、まずご審議いただければと思う。

岡田教育長  
日ノ原係長

昨年は夏休みに入る前あたりに実施している。

そうである。昨年度は7月2日から始まり、14日までの6日間で実施をしている。

岡田教育長

これから浜田教育事務所との学校訪問が予定されているが、それが終われば6月議会が始まって動けないため、1学期に実施しようと思うと、先ほど言った様に7月に入った夏休み直前になると思う。もしくは、そこを外してでもということであれば、再度日程調整をしたいと思います。いつごろがよろしいか。

宇津委員

昨年度は、そんなに違和感はなかったが、ただあまり後ろにしてしまうと学校も成績を付けたり、中学校では学級弁論をやっているため、そこにぶつからない様にとという思いがあった。昨年はそんなことがなかったため、できればその辺りの範囲内で実施していただければと思う。

岡田教育長

昨年度のスケジュールを念頭に、調整をしてはどうかといった宇津委員からのご意見があったが、そのぐらいの時期でよろしいか。

各委員

はい。

岡田教育長

それでは、その辺りの時期を見計らって調整をしていきたいと思う。それから訪問時、実際に校長先生とお話をしたりというのはこのメンバーであるが、学力向上推進室は参加されなくてよいか。

鳥居室長

結構である。

岡田教育長

それでは、意見交換のテーマや、どこを中心に学校を見てみたい等のご意見があればお願いします。

宇津委員

やはり、学力向上は外せない。それぞれの学校で強みを持っていると思う。この強みを活かした取組を聞いてみたい。全ての学校で共通のものではなく、自分の学校でここが強みでここを活かしていきたいというところを聞いてみたい。それが昨年取り組んだICTを活用したものであるかもしれない。これは外せない。

岡田教育長

他の委員方はどうか。総花的なものではなく、この学校が特に力を入れている取組について絞って話をすることか。

宇津委員

ここがうちの学校は強い、これでやるんだよということがある

のではないかと思います。

花田委員

ずっと続けて聞いているいじめ等の問題行動、不登校の現状及び取組については引き続きお願いしたい。

岡田教育長  
宇津委員

その他はいかがか。

最近挙がってきている問題で、中学校の休日における部活動の問題がある。これもおおよその目途を立てての計画の様なので、どのみち取り組んでいかないといけない大きな課題だろうと思う。そのあたりがどこまで承知しておられて、方向付けがそれぞれなされているのか、少し心配している。

これは学校任せではことが進まないと思うので、教育委員会も一緒になって取り組んでいかないといけない部分だろうと思う。そのあたりの探りが入れるといいなという気がする。これは中学校に関わる問題だと思うが。

岡田教育長

この件については、今中学校の校長会長と一緒に話をさせてもらっている。イベントの精査や具体的な休日の地域移行をどうしていくか、実態はどうなのかということをやっている。

県でも大きな問題として取り上げられていた。

先ほど説明した市町村の教育長会でも、そのテーマで話をしたが、実はその後、昨日くらいに新聞に出たと思うが、文科省の検討委員会の中で基本的な考え方が示され、それを受けて5月中くらいに文科省で方針を決めるということなので、ちょっとこれは委員会でまたどういう状況で進んでいるかということ、別途機会を設けて話をさせてもらえたらと思う。

必要に応じて学校で少し、学校の状況を聞き取らせてもらったらと思う。

できたらその前のどこかのタイミングで、本当に大事なことで、しかも難しいことなので、その時間を改めて取らせてもらえたらと思う。

杉野本委員

こちらからテーマや分野を決めて、絞って意見を聞くのもいいと思うが、先ほど宇津委員も言われたが、その学校の独自の何か、だからこそ話せるものがあるかなと思う。

例えば、コロナ禍の中でどのような工夫をしたとか、規模や地域性の中で独自の工夫みたいなものがあつたと思う。その中で、でもまだこういう課題が残っていると、まだコロナの状況の中でやっていいのかなのかということもあると思うが、ある程度、そのあたり対応について落ち着いてきているのであれば、で

もここが困っているという、学校の困りごとを聞けたらいいかなと思う。教育委員会として何か応援できることがあるなら、すぐに応えられるかどうか分からないが、そういうことを聞けたらいいかなと思う。

岡田教育長  
杉野本委員

分野を限らずにということか。

例えば、この学校は学力に危機感を持っているとか、うちは生徒指導であるとか、うちは不登校の子がとか、保護者対応がとか、色々な課題があると思う。

1つは子どもの実態の中で、どういうところを特に力を入れて取り組んでいるか、さらに課題としてどういう教育課題を持っているのかというあたりを、校長先生をはじめ、管理職あたりがどう捉えておられるかを聞けたらいいかなという気がする。

子どもについてが1つと、学校運営上のところで実際の指導の部分とか対応の部分で工夫していることや困っていることあたりが聞けるといいかなと思う。

岡田教育長

承知した。そうすると、部活動の地域移行は別途設けるにしても、特に学力向上での強みを活かした取組、それから学力向上以外でも学校で力を入れておられる取組についての色々な工夫、課題や困りごとを聞いてみようということ。

いじめや不登校の取組については、これはずっと継続して聞いているので、そこはまた説明してもらおう。おおむね、このような内容でよろしいか。

委員方  
岡田教育長

全会一致で承認

ありがとうございます。では、その様なテーマでまとめて学校にも話をしたいと思う。

## (2) 令和4年度総合教育会議の議題について（資料2）

日ノ原課長

資料2をご覧いただき、先般、日程については事前にご連絡をさせていただいたが、日時については令和4年6月29日（水）10時から12時で開催をしたいと思っている。

場所については、庁議室である。

出席者については、市長、副市長、教育長、教育委員方、事務局である。

本日のところで、事務局からテーマについての案を準備させていただいている。2つあるが、1つ目はICTを活用した教育についてということで、令和3年度から始まったICT機器の活用教育で



あるが、令和 3 年度にこういったことをやってきたというところを振り返りながら、今後こういった活用が目指せるのかというところで、当然予算も伴ってくるが、ICT 活用教育の推進と今後の可能性についてというところが 1 つ目である。

2 つ目については、学校運営協議会制度についてということで、こちらについては平成 16 年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により制度化され、平成 29 年の同法の改正により、その設置が教育委員会の努力義務となっているものである。

裏面をご覧ください、「学校運営の基本方針の承認」、「学校運営に関する意見」、「教職員の任用に関する意見」という 3 つの権限の部分について、学校運営の強化を図るための仕組みというかたちである。現状、浜田市の公立小中学校においては、学校評議員を置いているため、学校運営協議会は設置していないが、今後、設置をした方がいいのかというところで、今後の方向性について意見交換をしていただければと思っており、本日提案をさせていただいた。

岡田教育長 今、総合教育会議の議題として 2 つ事務局から用意をしているが、これに限らず、委員方からは是非このテーマでやりたい等あれば、ご意見をいただきたいと思う。

日ノ原係長 昨年は教育振興計画の関係が 1 つと教育の魅力化の部分でコンソーシアムについて、それから市内中学校の進学状況等を大きく 2 本にさせていただいている。

岡田教育長 教育課題は色々あるが、今年度のこのタイミングでこういったテーマで市長と話を進めていくか。

特に 2 つ目の議題で話をしようと思うと、教育委員会としてコミュニティスクールに向けてどうするのかと問われる。ただ、文科省や県の流れとしては、高校はこちらに移行するというので、コンソーシアムが学校運営協議会に変わってくる流れで進んでいるため、これを議題にするとすると教育委員会としての考えを少し用意しておかなければならない。

杉野本委員 ここに出てくるということは、前に進んでいく方向だと捉えられそうな気がするが。

宇津委員 ただ、やはり慎重に考えていかなければならないと思うが、「教職員の任用に関する意見」とあるが、この協議会で評価をし、さらに評価に基づく方向性を打ち出せる、そういったことで果たしていいのかなと心配である。それが学校運営の強化に繋がればい

岡田教育長

いが、本当に強化にならなくて、場合によっては崩してしまうことになってしまうことも考えておかなければならない。心配しておかなければならないため、慎重にかかからないといけないと思う。

他市の取組の中では、教職員の任用に関する部分については、地域の学校運営協議会の制度からは外して、他の部分はやりましよう取組をしているところもある。そこは考え次第であるとは思っているが、果たしてこれを議題に挙げて、市長と意見交換することがタイミング的ということもあってどうかという状況である。ただ、国の方針や流れを考えてきた時に、いずれにしても避けては通れない議題にはなると思う。むしろ他を優先して、この話が今必要ではないかということであれば、時間も限られているためあまり多くの議題で話ができないが、一番タイムリーなもので行いたいとは思っている。

宇津委員  
岡田教育長  
花田委員

総合教育会議とは、市長が招集をする会議であるか。

そうである。

この議題については、こちらが提案して了承を得て決まるのか。それとも市長から議題について決められるのか。

岡田教育長

一応、こちらから提案をさせていただくが、市長がそれより別のテーマで行いたいとなれば、市長が招集しての会議であるため、そちらが優先される。

この場でなかなか決まりづらいようであれば、また日にちを決めて、こういった内容がいいのではないかと改めて聞く方がいいか。

日ノ原係長

市長部局ともすり合わせないといけない。

そうである。一応、5月の教育委員会定例会の時に、具体なところについて委員方に説明をさせていただいて、当日を迎える様な流れでいきたいと思っている。

岡田教育長

承知した。それまでの間で、本日頭出しをしたが、少し期間を設けて、例えば連休明けぐらいまでのところで委員方から意見を添えていただいて、それは文書なり、何なりで協議をして絞り込んで、5月の教育委員会定例会で決めるという流れでもよろしいか。

日ノ原係長  
岡田教育長

はい。

なかなか、難しいテーマかなという意見が出たため、ここはもう少し慎重に進めていきたいと思うが、よろしいか。

各委員

はい。

岡田教育長	事務局から 2 つの提案をさせていただいたが、委員方に持ち帰っていただいて、じっくり考えていただきたい。いつごろまでにと いうところは決めておくか。
日ノ原係長	はい。連休明けの 5 月 9 日（月）までをお願いしたいと思う。
委員方	承知した。
岡田教育長	連休中のところでじっくり考えていただいて、5 月 9 日までのと ころで、それぞれテーマについて、理由と併せて教えていただき たいと思う。  なお、テーマが決まれば 5 月の教育委員会定例会までのと ころで、もう少し踏み込んだ資料等の用意をさせていただきたいと思 う。よろしく願います。

### 3 部長・課長等報告事項

日ノ原係長	令和 4 年 6 月定例会議日程（案）（資料 3） 開会が 6 月 15 日（水）、最終日が 6 月 30 日（木）の日程で 6 月議会が開催される。  行事等予定表（資料 4） 委員方に出席いただきたいものについては丸を付けている。 必ずご出席いただきたいものについては、5 月 26 日（木）第 203 回教育委員会定例会である。中学校の関係では石見地区の 大会、5 月下旬には水泳、陸上の体育大会が開催される。行事 予定表にも掲載しているため、またご覧いただき、参加してい ただけるものについては、ご参加いただければと思う。よろし く願います。
岡田教育長	行事予定について、ご質問等あれば願います。
宇津委員	5 月 26 日、同日に教育委員会定例会と小体連の陸上大会が予 定されているが、昨年度、小体連陸上大会は開催されたか。
日ノ原係長	昨年度は無観客で、結構雨が降ったが実施された。
山口課長	小体連事務局の美川小学校の大達校長から、無観客での開催 であるが、是非、委員方にはお越しいただいて応援していただ ければ幸いということは伺っている。
岡田教育長	今年も無観客であるか。
山口課長	そうである。競技もかなり絞ってコンパクトにしたいといっ た意向もあり、こういったかたちで開催される。
宇津委員	我々が応援に行ってもいいということでもいいか。

山口課長	そうである。委員方については、応援に来てくださいということである。
岡田教育長	小体連陸上大会が、8時50分から13時55分までの予定であり、午後からは教育委員会定例会があるため、午前中のところで応援していただきたいと思う。
杉野本委員	その他はよろしいか。 5月7日（土）石見地区中学校柔道大会については、規模縮小のため来賓案内は行わないと記載があるが、こちらの大会については、来てほしくないと思わず受け止めていいか。
岡田教育長	今、分かるか。
山口課長	分からない。申し訳ありません。
日ノ原係長	最近では来賓としては呼ばないが、来ていただくのは大丈夫であるというパターンと、できればご遠慮くださいといったパターンもあり、色々である。申し訳ない。
山口課長	市の小体連、中体連に関しては、是非来ていただきたいという意向であるが、石見地区大会においては、他の市町も関係するところまでかというところである。
岡田教育長	それでは、確認していただければと思う。
山口課長	承知した。
岡田教育長	その他はよろしいか。
各委員	特になし。
松山担当課長	令和4年度公立幼稚園園児数一覧表（資料5） 1月28日に開催予定であった定例会資料にて、12月の募集終了後の人員の報告はさせていただいているが、4月1日時点のものができあがったため、お示しをさせていただいている。 石見幼稚園については、11名、長浜幼稚園が12名、美川幼稚園が10名の計33名の幼稚園園児数でスタートしている。 石見幼稚園については、2クラス、長浜幼稚園も2クラス、美川幼稚園は1クラスでスタートしている。長浜幼稚園の5歳児クラスであるが、こちらには6名と記載をさせていただいているが、4月18日に2名増えており、現在は8名で合計14名となっている。以上である。
岡田教育長	ただいま公立幼稚園の園児数について説明があった。ご質問等あればお願いします。
各委員	特になし。

山口課長

令和4年度学校職員名簿（資料6）

学校職員名簿をご覧いただき、網掛けの部分が配置換え、転任、転補等で異動となっている。また、ご確認いただければと思う。

令和4年度学校別児童生徒数一覧表（資料7）

学校別児童生徒数についてであるが、4月1日現在のものである。5月1日が学校基本調査の基準日であり、加配等の確定も5月1日であるため、今それに合わせて調整しているところである。今年は小学校新入生が385名であるが、4月に入って1名増えて、今現在は386名である。改めて、5月1日現在のものについては、追って次回の教育委員会定例会の時に資料提供させていただければと思っている。これで学級数が当初と変動するといったことは今現在はない。

令和3年度「浜田市の人物読本ふるさとの50人」活用について（資料8）

昨年度の活用状況を載せている。昨年度はオリンピック等もあって、竹本正男先生や福井誠先生を取り上げた学校もあり、図書館等で特別展示をされた学校もある。そういったところが例年と違うところかなと思う。引き続いて小学校4年生以上に配布し、活用していきたいと思っている。以上である。

岡田教育長  
各委員

以上の説明について、ご質問等あれば願います。  
特になし。

永田担当課長

令和4年度 まちづくりセンター職員名簿（資料9）

今年度、4月1日採用ということで、網掛けをしている6名の方が新規採用の方である。少し見にくいですが、周布のセンター長の吉賀さん、主事の方原田さん、大麻のセンター長の長松さん、今市のセンター長の野村さんについては役職変更ということで、令和4年度から4名の方が主事からセンター長へ、事務員から主事へ変更となっている。

令和4年度 まちづくりコーディネーター（資料10）

昨年度から各地域に1人ずつ配置をしている。今年度、異動

として旭地域の大屋マサ子さんであるが、これまでは今市のセンター長であったが、新たにまちづくりコーディネーターとして採用している。

それから金城地域であるが、以前は内藤さんが務めておられたが、内藤さんは退職され、毛利美和子さんが勤務日数を増やして、そのままコーディネーターとして務められる。

今年度から6名体制で、各地域ではなく、本庁に一括で勤務していただき、各地域を持ちながら本庁で勤務する体制に変更している。

併せてもう一部、まちづくりコーディネーター通信を付けさせていただいているが、昨年度は手探りの中、各地域で勤務していただき、色々な活動を進めてきていただいたが、なかなかコーディネーターの方1人で勤務しているというところでは、情報の共有が取りにくいというところで、先ほど申し上げたとおり、本庁で勤務していただいている。そうした中で、自分たちが取り組んでいる活動をしっかり情報発信していかなければというところで、昨年度末にコーディネーター通信を発行している。これについては、年間4回、四半期ごとに1回発行するというところで計画をしている。

コーディネーター通信の最後のページをご覧ください、3つの今年度の活動予定を掲げている。

まず1つ目、浜田地域まちづくり推進委員会設立に向けた取組を進めていこうというところである。

2つ目は、活動推進プロジェクトと書いているが、こちらについてはまちづくり委員会が抱えている色々な課題をコーディネーターが入って行って、課題解決の支援をしていこうというところである。

3つ目は、まちづくりコーディネーター活動発信プロジェクトというところで、3つ目のプロジェクトが今回資料として提出させていただいているまちづくりコーディネーター通信である。

浜田市社会教育アドバイザーの委嘱及び令和3年度の活動について（資料11）

昨年度から引き続いて、今年度も長畑実先生に社会教育アドバイザーとして教育長から4月1日に委嘱状を交付させていた

だいている。

委嘱期間としては、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの1年間である。

資料の中段から、令和3年度の活動報告を載せている。社会教育委員の会での講演であったり、各地区のまちづくり委員会からの依頼があった場合の講話、指導に出られたり、また、昨年度は浜田市総合振興計画の関係で審議会委員としても出席をしていただき、また、協働のまちづくりの推進部会においては、協働のまちづくりの推進計画の策定に従事していただいている状況である。併せて、歴史文化保存展示施設専門検討委員会会長としての職も受けられて、活動をされている状況である。詳しい活動内容については、令和3年度の活動報告をご覧いただければと思う。以上である。

岡田教育長

資料9から11までのところで、何かご質問等あればお願いします。

各委員

特になし。

木屋担当課長

令和3年度 青少年サポートセンターの利用状況について（資料12）

まず、延べ相談件数であるが、令和3年度は合計で1,743件の相談を受けている。令和2年度の延べ相談件数が1,356件であったため、約29%増加している。増えているのは、学校問題や個人的な問題で、家庭の問題については減っている状況である。

続いて、延べ相談件数の相談方法の内訳である。来所、電話、手紙、訪問ということで内訳を載せている。

3番目の表であるが、相談件数の内訳である。単発の相談を除いて、継続して相談されたものを「ケース」と呼んでいるが、その内訳を示したものである。したがって、最初の延べ相談件数の相談者とは一致していない。令和2年度の合計が70名であったが、転出された方、進学で支援が必要でなくなった方など8名の方を除いて、令和3年度の当初は62名を対象としてスタートしている。年度途中で新たに17名が加わり、令和3年度の相談件数としては、合計で79名の方がおられた。

下段に人数の説明ということで、令和2年度に相談人数が70名、支援が終了した人数が8名、令和3年度当初相談対象人数

が 62 名、令和 3 年度途中で新規で相談された人数が 17 名、最終的に令和 3 年度の相談人数が 79 名、令和 3 年度中に 5 名の方が支援を終了し、令和 4 年度の当初相談対象人数が 74 名となっている。

続いて裏面をご覧ください、支援終了者の内訳ということで、令和 3 年度末で支援終了の方が 5 名おられるが、内訳として転出の方が 2 名、就労の方が 1 名、その他の方が 2 名おられるが、これは途中で連絡が全くとれなくなった方、そして本人、家族の方から支援不要の申出があったことにより、その他で 2 名となっている。

続いて、若年無業者の状況である。これは学校に通っていない、あるいは職業についていない方の状況であるが、合計 27 名のうち、ひきこもりの方が 12 名、ひきこもりではないが仕事に就いていない方が 15 名であった。

1 番下の表をご覧ください、居場所の利用状況についてであるが、令和 3 年度の利用人数が延べ 1,051 名、1 日の平均利用人数が 4.44 名であった。令和 2 年度は延べ 740 名であったため、約 42%増加している。これは、山びこ学級が昨年 4 月から青少年サポートセンターに隣接して開所されたことにより、その通級児童生徒が帰りに居場所に寄ることが増え、そのことが大きな原因と考えられる。当然のことながら、青少年サポートセンターとしてはマスクの着用はもちろんのこと、利用者の方の手指の消毒、体温測定、施設内の消毒や換気などを行い、安心して利用していただけるように努めているところである。以上である。

岡田教育長

それでは青少年サポートセンターの利用状況について、ご質問等があればお願いします。

山びこ学級が隣接したことにより、色々なかたちで相乗効果が出てきていると思う。連携も取りやすくなっている。

この件についてはよろしいか。

各委員

特になし。

鳥居室長

第 1 回（4 月）市校長会資料（資料 13）

校長会で説明したものを報告させていただく。今年度の学力向上推進室が行う主なものについて、各学校に周知するために出したものである。



1 番の今年度の学力育成総合対策事業について、資料 A として事業内容、予算を入れたものを付けているため、ご確認していただければと思う。その中で特に指定校についてであるが、そこに書き出している事業と学校である。

2 番目の丸の協調学習研究指定校については 1 校増やしており、増やした枠は小学校枠である。

それから下から 2 番目の丸であるが、国語教育推進指定校として、これは新規事業として取り上げたものである。

1 番下の算数科授業改善指定校についても、新規事業として取り上げている。指定校については全て今年度が 1 年目の学校であり、2 年間継続している学校はない。新たな気持ちで取り組んでもらいたいと思っている。それから各指定校、それぞれ年 2 回以上の公開授業をしてくださいとお願いしている。今年度は、浜田市内の各教員、指定校の公開授業に、いずれか 1 回は必ず参加するようにお願いしている。なかなか学校から出て自主的に研修していくことが難しい状況でもあるが、重々承知の上で、外に出てしっかり良いものを見て学んで持って帰るということをしっかりやっていただきたい。日々の授業も大切であるが、やはり自分を研鑽していくということが教員の一番の仕事であるため、校長会で了解を得て課したところである。5 月の校長会で指定校の公開授業日がほぼ固まったため、日程をお伝えして年間を通してどの公開授業に参加するのか早めに決めていただき、計画を立てていただけるようなかたちをとっていきたいと思っている。

もう 1 つは先生方が参加しやすくするために、市の教育研究会の教科領域部会と連携して、公開事業をそれぞれの部会の研修として充てていただけると何回も出かけていくことが少なくなる。市の教育研究会とも連携して取り組んでいきたいと思う。

(2) 研修会等については、これまでも取り組んできた研修を心がけて行っていきたいと思っている。

2 番目の浜田市小中連携教育については、資料 B として連携教育の基本方針を出している。後期の教育振興計画が始まったが、前期を引き継いでおり、基本的には大きな変更はない。

4 ページ目のところに表にして、項目と目標値を入れている。項目と目標値には若干変更があることを承知していただき

たいと思う。この中で一番取り組んでいきたいのは生活習慣のところで、メディア接触、家庭学習の部分である。なかなか改善が見られないということで、推進委員会の校長先生方、それからブロック代表の校長先生方が共通理解をしているのが、時間も大切だけど子どもたちが自分で自分の家での生活を設計していく能力を育てていくことが学校で大切にしなければならないことである。時間管理は保護者の責任である。そこに向かうために、子どもたちが時間設定を自分で計画を立ててできる力を付けていきましょう。それに家庭学習のところに力点を置くと、メディア接触も自ずと改善していこうと思っている。重点を定めながらやっていただきたいとお願いして共通理解を得ているところである。市長からも取組の星取表を作りなさいと言われている。一応、理解はいただいているが、そういったことも進めながらやっていきたいと思っている。

続いて、3番目の学力向上推進室の学校訪問指導についてである。教育事務所は教科の専門的などを訪問指導していると思うが、もちろん我々もそこを外してはいけないが、我々の目的は授業改善、しかも学力向上推進室が出している「子どもの声でつくる授業」の反映状況についての訪問を行う。そのために、年度初めに各学校の方向性と年度末には実践の成果と課題についても協議を行う。その間では年2回、学校に訪問して授業を見たり、研究協議と一緒に参加している。事前の授業構想をつくる段階から関わって行っている。2回の訪問指導のうち、1回は任意で何でも結構である。もう1回は算数か数学としている。既に計画が出てきているため、ほぼ訪問の日程が固まってきている。連休明けには各学校に周知できると思っている。

それから、初任者をしっかり支えていきたいという思いがあるため、教育事務所が行う初任者の訪問指導については我々も出かけていく。今年は中学校の生徒指導に関する訪問指導を教育事務所が行うことになっている。そちらについても、我々も一緒に出かけて関わっていくことにしている。色々な授業があるが、授業に併せて、訪問指導を行うことが一番の要かなと思っている。日々の授業改善が学力向上の一番の大切な部分であると思っている。

令和3年度 学力向上総合対策事業実績報告書（資料14）

資料14をご覧いただき、令和3年度の学力向上総合対策事業の実績報告について、冊子にしてまとめている。たくさんあり、全ての事業について状況と成果と課題を出しているが、新しく取り入れたこと等々を説明して終了させていただければと思う。その他については、またご覧いただければと思う。

まず、10ページを開いていただき、学習プリント配信システムの活用についてである。これまでは紙のプリントで行っていたが、児童生徒に一人一台のタブレット端末の活用が始まり、タブレットドリル方式に変えている。そのことについて、報告をさせていただく。

小学校は国語、算数、中学校は国語、数学、英語の導入をしている。

事業評価のところの4行目をご覧いただき、ネットワークの通信環境が良くなかったため、なかなか使えなかったということが前半の部分であった。学校で一斉に開こうと思ったら開けないという状況が起こっていたため、タブレットドリルの使用は非常に少なかった。12月から回線が強化され、参考として2つに分けて載せている。集計を取ってみると11月までの一人当たりの学習数が約6回であった。12月から3月までは一人当たり約47回ということで、活用回数が増えていることが分かる。ただし、これについては平均にしたため、回数の多い学校もあれば少ない学校もある。47回と言うよりも、もっと多く活用している学校もある。もっと活用していけるようにしていくことが今後の課題であると思っている。

続いて、17ページの協調学習の指定校関係についてである。昨年度の定例教育委員会の中でも少し紹介をしているが、今年度は実際に子どもたちが協調学習をどの様に感じているのか、実態を調査して、どれだけの成果が上がっているのか客観的に見てみようということでアンケートを行い、アンケートに対してインタビューに答えてもいいという生徒に直接会って、インタビューをさせていただいた。

18ページのところに、アンケート結果を載せている。「協調学習を引き起こす知識構成型ジグソー法のような勉強方法は好きですか」と質問している。好き、どちらかと言えば好きといったところがほとんどで、こういう学習方法を経験した子ども

もたちは良いと思っている。だが、どちらかと言えば嫌い、嫌いと話合ったり色々としていくことが嫌いという子どもも確かにいる。そういう子どもたちには配慮をしていかなければならないと当然思っている。肯定的な評価をした子どもたちの好きな理由を聞いてみた。1番多かった理由は、「自分で考え、自分から取り組むことができる」であった。次は、「考えが広がったり深まったりする」であった。3番目は、「学習内容がよく理解できる」であった。その裏付けになるのが、17ページの子どもたちのアンケートの記述部分、あるいはインタビューで聞き取ったことをまとめたものである。理解のところについても、いわゆるインプットしたことをアウトプットすることでより記憶に残るというところを子どもたちが語っていた。

それから自尊感情について、自分が認められているとか、そういったような、割と良いところが多いと思っている。これは昨年度までのところであるが、とにかくジグソー法という手法を広げるところをメインにおいて、指定校に関わっていたが、そろそろその授業は終わりかなと思っている。ジグソー法を行えばいいのではなく、質の高い授業のためにジグソー法を行う発想に切り替えていく時がそろそろやってきていると思っている。今年度はそのつもりで指定校に関わっていきたいと思っている。

続いて、20ページをご覧ください、これは昨年度から取り入れた指定校であるが、ICT機器を活用した指定校である。表を見ていただくと周布小学校で多くの研修をしていただいたと思う。学校独自で行ったものもあるが、市の教育委員会の研修に参加していただいたものも記載している。

22ページからは事業評価ということで、指定校の報告書から抜粋した一部を四角で囲ったところに掲載している。23ページの四角囲いの下のところに、それを基に我々が加えた評価である。周布小学校では、「普段使いのICTを目指して」を合言葉にして取り組んでいる。導入初年度であったが、非常に適切な目指す方向であったと思っている。

次の丸の部分をご覧ください、非常に良い雰囲気です。周布小学校の先生方が挑戦してくださった。とにかく、挑戦する。授業に挑戦する。そうすると、新たな課題や新たな活用方法が見えてくる。そして再度挑戦する。結局、ICTは授業の質を高める

道具であると実感されていく。そうすると、もっともっと良い授業構想をと非常に良い循環が周布小学校で生まれたと思っている。周布小学校の取組を授業実践例でも出しているが、校長から随時報告があった。今、こういった状況でということで、それを受けて学校へ行ったり、写真を送っていただいたり、それを各学校に情報提供をしている。周布小学校の取組が、起爆剤になって各学校の ICT を活用した授業改善が進んでいったと感じている。非常に周布小学校での取り組みが有効であったと思っている。

24 ページの一番最後のところに丸が付いているが、周布小学校からの提案で取り組んだことの報告会をさせてほしいということで、実施している。参加したのは、周布小学校から 3 名、校長会会長 1 名、それから私であった。パワーポイントによる取組方法と座談会というかたちで進めている。これは全て録画しており、オンデマンド方式で各学校へ情報提供をして、校内研修で活用していただけるようにしている。昨年度に新たに取り組んだことを中心に説明をさせていただいた。以上である。

岡田教育長

ありがとうございました。冒頭、学力向上を図るということが一番大切な教育委員会の務めではないかと話をしたが、これまで取り組んできた内容についても、きちんと分析してまとめていただき、結果として、例えば協調学習にしても ICT の活用教育にしても、教員なり、あるいは児童生徒にしっかり評価されていると分かるため、ここはさらに校種を広げるとか、指定校を増やしていくとか、次のステップとして今年チャレンジしようという結論に至り、取り組んでいる。今年度に取り組まれる学校も、室長からあったように新しい学校である。やはりそこでチャレンジされた方が、場合によっては人事異動で他の学校に行かれているケースもあると思う。そこでまた広めていただくことで少し時間はかかるが、方向感間違いはないということで、教育委員会として共有していただければ、さらに推進力になっていくのかなという思いで報告書を見させていただいた。

先ほど鳥居室長から報告があった内容について、ご質問等あればお願いします。

杉野本委員

学力育成向上事業として、かつて色々なところに手を広げ過ぎていたのかなと感じることもあった。だが、こうやって本当

岡田教育長

に授業づくりを大事にされて、ICT を活用したり、図書館の分野から国語、算数の強化の部分、協調学習といった授業づくりに向かって色々なところから取り組んでいて、特に重点的に取り組んでおられるのがよく分かった。丁寧な学校からの報告書を拾って、教育委員会としての成果をまとめておられるのを見ると確実に子どもたちの力になって、授業力が向上してきていると非常に嬉しく思った。学力向上推進室が大変であると思うが、身体を大事にして活躍していただければと思う。

協調学習、ICT の活用にしても、手法、アプローチが違って子どもたちの声で授業をつくるために、そのために授業を改善するというぶれないものがある、それをしっかり今まで取り組んできたことの成果をまとめたり、それをきちんと説明して広げていこうとしているため、今、杉野本委員からも嬉しい言葉をいただき、ますます頑張っていきたいと思う。

その他はいかがか。

岡山委員

研究指定校の種類がたくさんあるが、図書館活用教育であったり、ICT 機器を活用した授業改善の指定校であったり、私は浜田高校で地域の一人として生徒たちが地域課題を解決するための発表を聞く機会があったが、その時に根拠となる資料を用意してレポートの中に資料を入れて、地域の方に向けて説明する発表があった。そこで使われている資料が非常に古かったり、これはインターネットのどこから拾ってきた資料だろうかと思ったりするところがあった。やはり小学校、中学校からの積み上げが、最終的には高校の魅力化に繋がってくると思っている。是非、指定校に頑張ってもらって、先ほど教育長も言われたが、それを広めてもらって、ゆくゆくは浜田市の小中高全体の学力を底上げしていくつもりで各校頑張ってもらいたいと思った。

鳥居室長

先ほどおっしゃられた資料の件について、図書館活用教育の中でその辺りについてもしっかり指導をすることになっているが、引用した場合は出典を出すとか、地道にやっていきたいと思う。

先ほど教育長が言われたように、指定校は色々あるが、子どもたちの声でつくる授業が一丁目一番地である。それを踏まえた授業公開をしてくださいとされている。一番、先生方からはてなが出るのが、協調学習である。子どもたちの声でつくる授業とは、内

岡田教育長  
宇津委員

面的な動機づけを大切にしたい授業を行うようになっている。知識構成型ジグソー法とは、一見、外部からの動機づけによって子どもたちが本気になっていく手法であるが、それについて、実は協調学習もきちんと子どもの声でつくる授業に乗っかっている。単元を通して物事を考えてくださいと根拠を示しながら、5月の校長会ではその辺りの説明を行い、学校へ広げてくださいとしていきたいと思っている。

その他はいかがか。

私は、タブレットを一人一台持たせて、家庭に持って帰ってという運びの中で当初心配したのが不登校の子どもたちが何か追いやられるのではないかと心配だった。これを見ると、逆の結果が出ていて、仲間と繋がることができたとか、あるいは意欲化に繋がったとか、安心感に繋がったとか、私が心配していた逆の結果が出てほっとしたところである。

それから最後のところで、ICT機器の普段使いができるようになったというところで、私どもの年代であれば、そういう機器を見ると、そっと横を向きたがるような年代であるが、今の子どもたちというのはこの日常化で普段使いができるというところが、ずっと入っていけるのではないかという気がする。子どもたちが非常に良い世界で生きていると感じる。これからますます大変であると思うが、ICT機器を使った授業がますます面白おかしく発展することを願っている。ありがとうございます。

鳥居室長

実践事例の中でも出したが、不登校の子どもがいる学級の授業の様子をずっと映像として流している。不登校で家にいる子どもが入りたいという時に、授業に参加していただくことをやっている学校もある。そういったところで、不登校の子どもたちや特に特別支援教育にもっともっと活用できるように今後していかなければならないと思っているところである。

岡田教育長  
花田委員

その他はいかがか。

何年か前に視察に行かせてもらった時に見させていただき感じたことであるが、学校中が論理的思考だった。授業の中身だけではなく、友達と論理的に言い合って納得して自分たちで決めていく。学校中がそうであった。それをすごく感じた。それこそ掃除の時間であったり、結局はこの考え方の癖みたいなものが授業によって出来上がると、あらゆることに通じてくる

と思う。それが学校中に反映してくると、子どもがつくる学校が出来上がって、とても理想であると思った。今の場合、授業から中心に始めているが、授業中は子どもの声を聞くが、生徒指導で急に頭ごなしに子どもの権利を踏みにじるような理不尽な発言をされる場面もあるのではないかなと思う。やはり授業だけでやっていくのは無理ではないかと思うため、普段から先生方が意識してやっていくと授業も上手くいくと思うし、逆にも上手く進んで絡んでいくものであると思う。その辺りも伝えていきたい部分であると思った。

鳥居室長

学級づくりと授業づくりはセットである。学級づくりをやっていく上では、学級活動が1番でいわゆる学級会である。ここで子どもたちが自分たちのことを自分たちで話し合いながら決定して実行していくことを大切にしてほしいとずっと伝え続けている。学級会がしっかりできる学級は、私の経験では学力も良いと話をしている。なかなか日々が忙しくそこまでいかないところが現実であるが、そこも目指したいと思っている。学級自治ができる子どもたちを育てていく、そこを大切にしていきたいと思っている。ありがとうございます。

岡田教育長

先生方はやはり今まで積み上げてこられたご自身のキャリアがある中で、考え方を変えるということがなかなか難しいこともあるかもしれないが、まず見てもらって何かしらの気付きがあるのであれば変わってもらえるようなことに繋がっていかないかなと思っている。やはり、先生方にはチャレンジしてほしいと思う。新しい教育のあり方であったり、考え方であったり、何かのヒントがあると思っている。今、ご指摘いただいたことを教育委員会としてもしっかり進めていきたいと思う。授業だけではなく、生徒指導の面でも全て同じ考え方に基づいて、子どもたちの育ちがサポートできるような、そんな教育を目指していきたいと思っている。ありがとうございました。

その他はよろしいか。

各委員

特になし。

田中課長

サン・ビレッジ浜田アイススケート場の今期の営業終了について（資料15）

昨年の11月21日から営業をしており、5月6日までの営業を予定していたが、近年、気温の上昇により、冷凍機への負担



が大きいということ、それから春休み以降は利用者自体が減少傾向にあるということ、それから近年の新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、営業自体を4月17日で終了している。

この3年程度については、こうしてオープンを遅らせて、営業終了を少し早める措置をとっている。利用者については、やはり期間が短くなっているため、少し減少しているが、やはりコロナの影響が出ており、非常に減ってきている。この秋、またオープンするが、やはり10月のオープンではなく時期を少しずらして、昨年度と同じ様に11月オープンとなる予定である。気象状況等を見ながら、営業時期については判断していきたいと考えている。

令和3年度「浜田市の歴史読本 ふるさと浜田の歩み」の活用について（資料16）

令和2年度から副読本として、各小学校の6年生の児童に配布をして、活用していただいている。令和3年度にどのような活用をしていただいたのかアンケート調査を行い、それをまとめている。

活用していただいた学校は、16校中13校であった。これは複式学級のため活用できなかった学校等もあったが、13校で活用していただき、特別支援学級で2校であった。

活用の状況であるが、社会科で10校、理科で1校活用いただいている。それから、総合的な学習の時間や朝活動の時間にも活用していただいている。

裏面をご覧ください、利用項目について1番から40番の項目がある中で、項目名の横に活用した校数を載せている。やはり江戸時代、それから戦後のくらし、戦前戦後を中心に活用していただいている状況である。これは昨年度ともあまり変わっていない。

資料の最後には活用にあたっていただいたご意見等についても掲載しているため、後ほどご覧いただければと思う。報告については以上である。

資料15、16について、ご質問等あればお願いします。  
特になし。

岡田教育長

#### 4 その他

##### (1) 各課年間スケジュールについて

岡田教育長 日ノ原係長	各課の年間スケジュールについて、説明をお願いします。 令和4年度の教育委員会の各課の年間スケジュールを取りまとめたものである。新型コロナウイルスの関係で、まだ見通せないものもあるが、今現在の計画ということでご確認いただければと思う。委員方にご出席を願うものについては丸を付けているため、またご覧いただければと思う。よろしくをお願いします。
岡田教育長	あらかじめ令和4年度の年間スケジュールである。また、ご一読いただければと思う。 配布資料であるが、市民寄贈資料披露展が浜田郷土資料館で行われるものと、5月22日に舞姫社中の初公演が予定されている。それから「スタインウェイを弾いてみよう」という企画が、5月28日、29日で行われる内容の情報提供である。

##### (2) その他

岡田教育長 日ノ原係長	事務局からその他何かあるか。 特になし。
岡田教育長	その他のところで、委員方からご報告やご質問があればお願いします。
各委員	特になし。

#### 次回定例会日程

定例会 5月26日(木) 13時30分から 中央図書館2階多目的ホール

#### 次々回定例会日程

定例会 6月29日(水) 13時30分から 浜田市役所本庁4階講堂AB

15:05 終了